



# 諏訪市ゼロカーボンシティ宣言

## ～高原湖畔都市から脱炭素社会を目指す～

近年、世界各地で記録的な高温や大雨、大規模な森林火災や干ばつなど、地球温暖化が原因とみられる異常気象が頻発しており、これらは今や気候危機と言われています。長野県内においても、令和元年東日本台風による記録的な集中豪雨は、大規模な浸水被害をもたらし、諏訪市では、2021年8月に記録的な大雨により市内各所で浸水被害が発生しました。世界的にも稀有な定点観測記録を持つ、諏訪湖で冬期に出現する御神渡りも、近年では出現しない年が多くなり、578年の連続記録からも地球温暖化が証明されています。

2021年の国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）では、世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて1.5℃以内に抑え、2050年に温室効果ガス排出量実質ゼロに向けた各国の削減目標を強化するよう求め、合意に至りました。我が国においても、2020年10月に「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、2021年10月には「2030年度において温室効果ガスを2013年度比で50%の削減という高みに向け、挑戦を続けていく」ことを新たな目標にして改訂された「地球温暖化対策計画」が閣議決定されました。

諏訪市は、日照時間が長く、諏訪湖や霧ヶ峰など美しい自然環境と豊富な水資源や温泉など多くの自然資源が存在します。これらを活用し、環境と調和した脱炭素社会を実現し、自然豊かな諏訪市を未来へ受け継ぐとともに、将来世代の生命を守るために、世界の皆さんと共に気候変動対策に取り組むことが私たちの責務だと考えます。

よって、ここに気候非常事態を深く認識するとともに、第三次諏訪市環境基本計画の発表に併せ、2050年までに諏訪市の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指すことを宣言します。今後において、2030年度までに2010年度と比べて60%削減し、2050年実質ゼロを実現するために、市民・事業者・行政が一丸となり地域ぐるみでシナリオを描き次の取組を行います。

- 1 人びとの暮らしと調和し地域特性を活かした再生可能エネルギーの利活用と二酸化炭素吸収源となる緑を増やす取組を推進します。
- 2 省エネルギーへの転換と二酸化炭素排出量削減のためにライフスタイルの変革を推進します。
- 3 SDGsが掲げる持続可能な社会を目指し、気候変動の影響に備えたまちづくりを推進します。
- 4 循環型社会を実現するため、燃やすごみ量の削減と分別による可能な限りのごみの再資源化を推進します。

令和4（2022）年3月26日

長野県 諏訪市長

金子ゆかり